



SAAJ本部 主要部会・研究会ご案内資料

(2025年度) 関東地区主催 会員向け SAAJ活動説明会
2025年11月8日(土) 開催
にての説明資料

認定NPO法人日本システム監査人協会

1. 基準改訂委員会（主査：松枝憲司）

(1/2)

基準改訂委員会の目的

- ①経済産業省が公表している「システム監査基準・管理基準」とその実施方法や着眼点を記載したシステム監査・管理基準ガイドライン等を策定・更新して公表する。
- ②本ガイドラインの広報と普及活用を図ることでシステム監査人及び本協会の認知度の向上等を図る。

1. 活動の概要、体制等

- 1. システム監査・管理ガイドラインの策定と公表及び普及活動
- 2. 事業体制
 - ① テーマ別ガイドラインの作成
 - ・ 日本システム監査人協会
 - ・ システム監査学会他
 - ② 研修セミナーの開催等

基準改訂委員会（2025年度の活動メンバー）

主査：松枝

メンバー：SAAJ3名。テーマ別ガイドライン策定に向けて募集（ITアセスメント研と連携）

基準改訂委員会 活動実績（2025年10月現在）

- システム監査・管理基準ガイドライン（案）の公表とパブコメ募集（2023/5）
- システム監査・管理基準ガイドラインVer1を日本システム監査人協会HPより公表（23/8）
- テーマ別ガイドライン公表開始（25/1）公表済み3本&原案検討中
 - リスクアプローチに関するガイドライン
 - Devopsの管理／アジャイル開発の管理に関するガイドライン

お問い合わせ https://www.saa-j.or.jp/toiawase/saa-j_toiawase.html

【参考】基準・ガイドラインの所管、メンテナンス主体

(2/2)

- ・ システム監査基準及び管理基準本体は経産省が管理更新を担当する。
- ・ システム監査基準ガイドライン及び管理基準ガイドラインは、連絡会参加団体にて協力して管理更新する。代表団体は日本システム監査人協会（SAAJ）が務める。

経済産業省

システム監査基準

原則（What）、趣旨、解釈指針、等

R5年度版システム監査基準

システム管理基準

原則、目的、フレームワーク等

R5年度版システム管理基準

実施方法（How）、実施・書式等
管理項目の例、趣旨、着眼点等

民間団体

SAAJのHPで2023/8/10日公表



システム監査基準ガイドライン

システム管理基準ガイドライン

テーマ別ガイドライン

研究成果報告書（未）

2024年以降対応中

※ガイドラインセミナー動画も公開中

2. CSA利用推進グループ（主査：斉藤茂雄）

(1/2)

CSA利用推進Gの目的

- ① 協会の認定資格であるCSA・ASAの社会的な認知度を高めるための諸活動を推進
- ② 上記のために、CSA・ASAの力量向上に資する活動を推進
- ③ CSA・ASAのコミュニケーションの活性化を支援

活動の概要、会議頻度等

- CSAフォーラムの開催
（講師を招き、勉強会形式の研修会をオンラインで開催、対面の時は懇親会も実施、3～4ヶ月に1回の開催目標、1回2H）
- CSA利用推進に関する広報（DM等）
- メンバー会議（不定期）
- CSA交流会（過去1回開催）
- その他

CSA利用推進Gのメンバー

主査：斉藤茂雄（副会長）

メンバー：億谷和彦（理事）、淡路洋平（理事）、田村修（理事）、森岡俊也（理事）、大西智（監事、オブザーバー）

CSA利用推進G 活動実績

- CSAフォーラムの開催：2008年9月より通算43回開催
※CSAフォーラムはCSA・ASAの皆様が、システム監査に関する実務や事例研究、理論研究等を通して、システム監査業務に役に立つ研究を行う場です。CSA・ASA同士のフェイスtoフェイスの交流を図ることにより、相互啓発や情報交換を行い、CSA・ASAのスキルを高め、よってCSA・ASAのステータス向上を図ります。
- 主要自治体向け「入札条件に関するお願い」DM発送（2023年12実施）
- システム監査技術者試験会場での、入会案内、小冊子配布（2025年10月実施）

2. CSA利用推進グループ（主査：斉藤茂雄）

（2/2）

課題等

- 官公庁、地方自治体等の一部にCSA・ASAを認知されつつあり、CIO補佐官の登用等がありますが、一層の推進が必要です。
- CSA・ASAの知名度向上のための施策アイデアがあればご提案を歓迎します。
- CSAフォーラムの発表者を募集中です。1～1.5H発表いただいて、参加者で内容について意見交換します。テーマは特別設けていません。活動時間はCSA・ASAの継続教育時間として充当可能です。

公認システム監査人（CSA）、システム監査人補（ASA）の募集について

- ❑ 2026年春期の募集期間は、**2026年2月1日～3月31日** となります。
- ❑ 資格取得をお考えの方は是非この機会にチャレンジをお願い致します。
- ❑ 同僚や部下にまだCSA・ASAを取得していない方がおいでなら、是非勧奨お願いします。
- ❑ ご不明の点は協会HPの問い合わせ画面（下のURL）からお問い合わせください。

CSA/ASAの認定カード（有償）について

- ❑ 協会ではCSA/ASAの希望者の方に認定カードを発行しております。
- ❑ 以下のURLを参照ください。

https://www.saa-j.or.jp/csa/pdf/nintei_card_shinsei.pdf

お問い合わせ https://www.saa-j.or.jp/toiawase/saa-j_toiawase.html

お問い合わせ https://www.saa-j.or.jp/toiawase/saa-j_toiawase.html



3. 月例セミナー運営委員会（主査：戸室佳代子、副主査：豊田諭、億谷和彦）（1/1）

月例セミナー運営委員会の目的	月例セミナー参加のメリット
① システム監査に役立つ幅広く専門的な知見を提供することを目的に、月例でセミナーを運営しています（2月と8月を除く）。 ② 月例セミナーを通じてSAAJを知り、入会のきっかけとしていただくために、会員だけでなく一般のご参加も受け付けています。	➤ システム監査に関する重要テーマや動向を知ることができ、システム監査に必要な幅広い専門分野について有識者から知見を得られます。質問もできます。 ➤ リモート開催なのでどこからでも参加できます。当日参加出来ない場合は、オンデマンドで試聴できます。
月例セミナー開催実績（開催形態：年10回 2時間/回 リモート開催）	
❑ 第292回 災害としての太陽フレア対策、DX化の脆弱性から文明を守るために ❑ 第293回 防災DXの再考：災害対策行政におけるデジタル化の現状と課題 ❑ 第294回 AIのリスクと機会に対処するAIガバナンス・マネジメントの国際標準化 ❑ 第295回 デジタルガバナンス・コード3.0によるDX推進の加速 ❑ 第296回 金融庁「サイバーセキュリティガイドライン」の概要について ❑ 第297回 ベネッセ個人情報漏えい事故後のPMS再構築 ❑ 第298回 JUAS「企業IT動向調査」の結果からみる、今こそ問われるIT部門の真価と進化 ❑ 第299回 プライバシー影響評価の概要と普及のための課題 ❑ 第300回 システム監査・管理基準テーマ別ガイドラインとその活用について ❑ 第301回 ランサムウェア事案に共通する技術的課題と組織的課題	

4. 会報部会 (1/2)

(主査：竹原豊和、副主査：安部晃生、豊田諭)

会報部会の目的	活動の概要
① 会報が、会員やシステム監査人のコミュニケーションの場、また、情報交換の場となるように。 ② システム監査に関する啓発・広報活動の一翼を担うため。	● 毎月25日に発行し、協会のホームページに掲載する。 ● SAAJの会員及び研究会、部会、各支部から投稿記事を募集する。 ● 投稿記事には、匿名と記名投稿がある。 ● 会報の年間テーマを決めている。 【2025年：続・時代が求めるシステム監査】

会報部会メンバー（直近1年間の活動メンバー）

主査：竹原豊和、副主査：安部晃生、豊田諭

編集支援：松枝憲司(会長)、各副会長、各支部長

メンバー：石山実、金田雅子、坂本誠、田村修、辻本要子、野嶽俊一、山口達也

会報部会 活動実績

- 会報1号は、1988年2月に発行されました。(当時は隔月発行、紙媒体、会員に郵送)
- 会報108号(2009年6月号)から電子版となり、郵送は廃止になりました。
- 2017年10月には、会報全号がバックナンバーとして閲覧できるようになりました。
- 会報は、毎月メンバー持ち回りで編集しています。
- 発行後、国立国会図書館に納本されています。
- 毎年総会で、投稿された記事から優秀記事を表彰しています。(通称:会報アワード)

4. 会報部会（主査：竹原豊和、副主査：安部晃生、豊田諭）（2/2）

会報記事募集内容

会報への投稿は、システム監査にとどまらず、情報社会の健全な発展を応援できるような内容であれば歓迎します。

- 巻頭言(SAAJ会長、副会長から投稿)
- 投稿記事「めだか」：エッセイ、思い
- 実名投稿：研究成果、エッセイ、思い
- 部会、研究会からの活動報告
- 書評、意見箱、投稿への質問
- 注目情報、協会からのお知らせ等

会報投稿のメリット

- SAAJ会員であれば、どなたでも投稿可能です。
- システム監査人としての思いが投稿できます。
- 会報を通して、自分の考えを、多くの人に知ってもらうことができます。
- 投稿された記事が、国会図書館に納本されます。

会報部会 その他

- ❑ 会報の編集に興味がある方、会報部会への入会を歓迎します。
- ❑ 会報部会に入会されても投稿が可能です。
- ❑ 2017年11月号(200号)に「会報に見る30年の歩み」が掲載されています。

連絡先

会報部会 主査 竹原豊和 宛 <mailto:saajeditor@saaj.jp>

5. 法人部会（主査：山口達也）

(1/2)

法人部会の目的

システム内部監査・外部監査を「業務として実施」している企業担当者や、個人事業者が、業務としてのシステム監査に関する情報交換・協力等を通して、わが国におけるシステム監査の普及・啓発を図ること、そして、そのことを通して会員企業等の事業の発展に寄与することを目的としています。

活動の概要、会議頻度等

- 法人組織におけるシステム内部監査業務や、外部監査人としての監査業務等、業務としてのシステム監査を実施する上でのテクニックや最新動向を含む各種情報交換を主な目的として活動しています。
- 2月、8月を除く原則毎月第2火曜日に定例会を開催しています。

法人部会メンバー（直近1年間の活動メンバー）

主査：山口達也

メンバー（敬称略）：小野修一、斉藤茂雄、齊木孔二、真鍋直緒、松井秀雄、
浦上豊蔵、鈴木章彦、勝部武樹、石山実 他

法人部会 活動実績

- 法人部会活動内容見直しの実施
- オンラインミーティングを利用した定例部会運営の実施
- システム監査普及にかかわる活動計画
- 協会会報における法人会員紹介記事掲載の掲載（適宜）
- 活動環境（Google Workspace等）の積極的試行・活用検討

5. 法人部会（主査：山口達也）

(2/2)

課題、募集内容、人数等

- 企業に属されている個人会員の方は、システム監査人協会の活動のメリットについて、是非とも、自社企業でアピールして頂き、法人会員としてご参加をご検討下さい。
- 起業されている個人会員の方も、法人会員のメリットや、システム監査の普及、啓発のため、是非、法人会員としてのご登録をご検討下さい。

法人部会参加のメリット

- 企業の規模によりますが、最大10名の方が、個人会員と同じ条件で、協会活動に参加できます。
- 法人会員の社員職員は、SAAJ月例セミナーに何人でも会員料金で参加できます。
- 現在検討・準備中の情報セキュリティセミナーの講師として活躍できる機会ができる予定です。地方自治体とのコネクション醸成に役立てて頂けます。

その他

- ❑ 現在定例部会の運用方法を大きく見直し、より多くの方との意見交換ができるような運用を検討しております。詳細は別途ご案内予定ですが、26年度より開始できるよう準備をしております。
- ❑ システム監査を巡る環境変化がより急速に進展する状況においては、システム監査を実施する者同士の情報交換の意義も更に増していると考えます。新しいツールの活用等を通じた活動方式の見直しを含め、今後も常に時代に合わせた活動を心がけていきます。

お問い合わせ https://www.saaj.or.jp/toiawase/saaj_toiawase.html

6. システム監査事例研究会 （主査：野田正勝） （1/2）

システム監査事例研究会の目的

システム監査の普及を目的とした監査普及サービスおよび各種セミナーを実施し、システム監査スキルの向上を図ります。

活動の進め方

- ✓ システム監査普及サービス…引合いの都度（最近では2020年度、21年度、22年度、25年度に実施）
- ✓ システム監査実務セミナー…年2回
- ✓ システム監査実践セミナー…休止中
- ✓ 事例に学ぶ課題解決セミナー…休止中
- ✓ 普及サービスの事例、事例に学ぶ課題解決セミナーの事例にもとづく実務・実践セミナーの新教材の作成および講師の育成…通年
- ✓ 定例会…毎月第一水曜日

活動実績

- システム監査普及サービス約30例
- システム監査実務セミナー46回
- システム監査実践セミナー36回
- 事例に学ぶ課題解決セミナー22回

6. システム監査事例研究会 （主査：野田正勝） （2/2）

入会について

システム監査事例研究会は、協会の中でも、最も身近で実践的な活動を行っている研究会です。参加者の主体的な活動ができ、やる気次第で活動の幅は広がっていきます。

- 普段、システム監査に係わる機会のない方には、普及サービスの実施、セミナー教材の作成などの作業を通して、機会に触れることができます。
- セミナーの講師を行うことで、様々な受講者と交流を深めることができます。
- システム監査スキルの向上を目指した研究・学習活動ができます。定例会ではご自身で興味あるテーマを設定して発表・討論を行うことができます。
- 定例会開催後、懇親会を行い、交流を深めています（現在は休止中）。様々な情報交換の場となっています。

研究会メンバー（直近1年間の活動メンバー）

主査：野田正勝
メンバー：13名

お問い合わせ https://www.saa-j.or.jp/toiawase/saa-j_toiawase.html

7. 情報セキュリティ監査研究会（主査：舘岡均）

（1/2）

情報セキュリティ監査研究会の目的

デジタル社会の発展、DXの推進、ならびにクラウド、IoT、テレワーク、生成AIの活用など、デジタル化および適用分野は急速に拡大している。すなわち、システム監査の対応すべき領域、業種、技術が進展しており、監査のリスクと対策の再認識や、ルールの見直しが求められています。また、従来からセキュリティ事故やサイバー攻撃が後を絶たず続いており、大規模な被害が発生しています。このような状況下で、当研究会ではITおよび応用分野、セキュリティ等に係る現状と動向について、範囲を広げて調査して俯瞰的に把握し、課題等の整理、個別テーマ研究を行い、AI活用も実施して進めます。これらを通じてシステム監査／情報セキュリティ監査に役立てることを目的として活動を進めています。

活動の進め方

- 各メンバーがITおよび応用分野、セキュリティ等について、各業界、諸団体、専門分野等のそれぞれにおいてトピックスを見つけ、あるいは現状と動向を調査して俯瞰的に把握して、システム監査／情報セキュリティ監査に役立てる。
- さらに現在あるいは今後着目する調査／研究内容、などを持ち寄って、課題等を整理する。
- これらを基に、各メンバーの得意分野あるいは興味を持つテーマをコアにして、「個別の研究テーマ」を適宜に定めて研究活動を進める。
- これらの活動ではAI活用も実施して進める。さらには、必要に応じて、テーマに詳しい知験者（他団体、SAAJ会員など）に参加頂いて活動レベルの向上を図る。

<定例会>

原則月1回（第4木曜日）19:15～20:45、協会事務所およびWeb会議を併用。

7. 情報セキュリティ監査研究会（主査：舘岡均）（2/2）

活動実績（テーマ）

- ✓ 2016年、2017年…「経済産業省・情報セキュリティ管理基準およびFISC安全対策基準の活用」、「大規模個人情報流出事案の原因究明」、「世界的な規模で発生 of ランサムウェア」etc
- ✓ 2018年…「**情報セキュリティサービス基準**」、「FISC安全対策基準（第9版）」、etc.
- ✓ 2019年…「情報システム監査実践マニュアル（赤本）第3版・情報セキュリティ部分」etc.
- ✓ 2020年…「政府情報システムのためのセキュリティ評価制度（ISMAP）」etc.
- ✓ 2021年、2022年、2023年…「サイバーセキュリティ実績／計画」、「情報セキュリティ白書」レビュー、「ランサムウェア／脆弱性対策としてのMITRE ATT&CKについて」etc.
- ✓ 2024年、2025年…「情報セキュリティ白書／情報通信白書等」、「大学・高等学校におけるセキュリティ教育」、「ランサムウェア」、「セキュリティ動向（各省庁、NIST、等）」、etc.

主査：舘岡均。浅野（座長）、斉藤茂雄、豊田、荒町、永井徳人、竹原、大西、森岡、細川、小林、麻生、淡路、鈴木。 他メンバー6名、オブザーバ8名、アドバイザー：米川敦

参加について

- メリットとしては、広い分野の知見が得られ、自身の研究成果の発表、広報、等の機会が出来る。
- **次のような活動に賛同される方の参加を歓迎します。**
 - ✓ 各メンバーがビジネスマナーを遵守し、お互いの考え方を尊重することをベースとしてコミュニケーションを図り、全員参加型の活動を目指す。
 - ✓ 研究テーマの対象範囲が広いので、前述の＜活動の進め方＞のように研究活動を進めて行く。
 - ✓ 参加メンバーは、ITおよびセキュリティ等のトピックス、現状と動向調査、自身の研究内容などについて、研究会にて話題を提供する（月1回）。

お問い合わせ https://www.saa-j.or.jp/toiawase/saa-j_toiawase.html

活動概要

ITサービスの提供者と利用者双方における適切な管理を維持・向上させる活動を、ITアセスメントととらえて、システム管理基準ガイドラインの活用に関する研究を行います。

具体的には以下のテーマに取り組みます。

(1) ITガバナンスに関連する事項

- a) JIS Q 38500：2025(予定、ITガバナンス) の活用と普及
- b) JIS Q 38503：2024(予定、ITガバナンスのアセスメント) の活用と普及
- c) ISO/IEC 38501 Part-1,2（ITガバナンスの実装）の改定プロジェクトに国内委員会 SC40WG1を通じて参画

(2) システム監査・管理基準ガイドラインの活用法、テーマ別ガイドラインの研究等

システム管理基準ガイドラインを現場でより活用できるよう補足・改訂等を研究する
本基準や赤本*の活用に興味がある方歓迎です。

(3) システム監査・管理基準ガイドライン運営委員会への参画

システム監査関係団体及び経産省による本委員会および個別WGに参画しシステム監査・管理基準ガイドラインの開発に貢献している。

(4) 生成AIの活用

システム監査・管理基準ガイドライン、DX、デジタルガバナンス情報分析などの研究
(1)、(2)、(3)は統合的に進めます。英語の得意な方はより歓迎。できなくても歓迎です。

進め方

研究会開催日時

1回/月の定例会を開催（Google meet）

8. ITアセスメント研究会（主査：松尾正行）

(2/2)

活動実績

- 過去システム監査基準研究会として、「情報システム監査実践マニュアル（赤本）第2版」「IT統制監査実践マニュアル（黄本）」の発刊や「システム管理基準forオフショアVer1」の発表等、システム管理基準の活用に関する研究を中心に行ってきた。
- 2020年6月に赤本*（3版）を出版した。
<https://www.saa-j.or.jp/shuppan/130903Akahon3Chirashi202104.pdf>
- R5年度の経済産業省の「システム監査基準とシステム管理基準の改訂委員会」に参画し、両基準（4月）及び両基準ガイドライン（8月）の発行に貢献した。
<https://www.meti.go.jp/policy/netsecurity/sys-kansa/>
<https://gl.systemkansa.org/>
- ITガバナンスのアセスメントに関する規格 ISO/IEC38503の開発を支援した（2022/1発行）。
- JIS Q 38503の開発に参画した（2025年度内発行予定）。
- ISO/IEC 38500（ITガバナンス）の改定プロジェクトに参画した（2024年2月発行）
- JIS Q 38500の開発に参画した（2025年内発行予定）



研究会参加のメリット

- ✓ ITガバナンスの基準に関する具体的な活用方法やITガバナンスをアセスメントする具体的な方法についての知見を獲得できる。
- ✓ ITアセッサとして、自身のビジネスの拡大に繋がる可能性がある。
- ✓ システム監査人として新たな活躍の場をメンバーとともに探っていくれます。



お問い合わせ https://www.saa-j.or.jp/toiawase/saa-j_toiawase.html

9. 個人情報保護監査研究会 (主査：斎藤由紀子) (1/2)

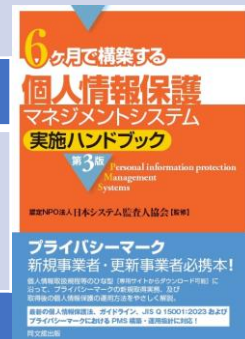
研究会運営について

個人情報保護監査研究会は、個人情報保護マネジメントシステム（以下PMSという）について、JIS規格、及び法令遵守等の観点から研究調査活動を行っています。プライバシーマーク（以下Pマークという）付与適格性審査や、事業者におけるPMSの悩み等から、課題を発見して、原因を追究し、対策を検討していきます。各メンバーが興味のある研究テーマを選び、定例会だけでなく、メーリングリストを利用して、最新情報の共有や意見交換を行っています。また、社会貢献の観点から、監査サービス、研修等PMS普及に取り組んでいます。

定例研究会：毎月第3火曜日18:30～20:00（リモート開催）

主な活動実績：

- ・ 2010年4月 個人情報保護監査研究会 再発足
- ・ 2014年12月 「PMS実施ハンドブック」(オレンジ本)出版。
- ・ 2015年9月 番号利用法改正を反映。 2016年5月 保護法改定を反映。
- ・ 2019年7月20日 「PMS実施ハンドブック」(第2版)出版
- ・ 2020年6月12日 保護法2020改正(2022/4/1施行)を反映
- ・ 2021年5月19日 保護法2021改正(2023/4/1施行)を反映
- ・ 2022年4月1日適用 プライバシーマークにおけるPMS構築・運用指針を反映
- ・ 2024年5月11日 「PMS実施ハンドブック」(第3版)出版
- ・ 2024年7月11日 「PMS実施ハンドブック」(第3版)電子書籍販売開始



研究会メンバー（直近1年間の活動メンバー）

主査：斎藤由紀子（副会長）、副主査：永井孝一（理事）、坂本誠（理事）
メンバー：岡田和也、小川京子、川辺喜悦、小林久芳、五味巻二、田口喜久、
成田佳應、仁井谷智也子、村上進司、吉谷尚雄（近畿）

お問い合わせ https://www.saaj.or.jp/toiawase/saaj_toiawase.html

9. 個人情報保護監査研究会（主査：斎藤由紀子）（2/2）

活動概要

個人情報保護監査研究会は、PMSについて、以下のような研究成果を活用した情報サービス等も行っています。

（1）個人情報保護監査サービス

これからPマークを取得される事業者、および更新審査を控えている事業者を対象に、経験豊富なPマーク審査員またはシステム監査人が、第三者として客観的な観点から「個人情報保護監査サービス」を提供します。詳細はこちら

<https://www.saa.jp/shibu/Kojin/kojin-service.html>

（2）「6ヶ月で構築するPMS」セミナーの開催

「6ヶ月で構築するPMS実施ハンドブック」第3版(R版)を用いて、セミナーを開催します。

- 基本コース：月1回 14時～17時（3時間）×6ヶ月

- 料金：100,000円(+税)/1名～（1社3名以上割引あり）

- 会場：日本システム監査人協会本部会議室（茅場町）/もしくは、Zoomリモート接続

- テキスト（別売）：「6ヶ月で構築するPMS実施ハンドブック」（第3版）¥3,850円

書店、もしくは「書籍注文書.PDF」をダウンロードし、FAX/Mailでお申込みください。

<https://www.saa.jp/shibu/Kojin/130706HBV3Tokubetsu.pdf>

（3）システム監査人の推薦

PMS構築やPMS監査に関する支援や相談を希望される事業者には、システム監査人推薦制度に基づき、講師やコンサルタントを推薦します。詳細及び申込み方法は、こちら↓

<https://www.saa.jp/csa/recommend.html>

個人情報保護マネジメントシステム構築・運用に関するQ&A集

- ◆質問は、お問い合わせへ https://www.saa.jp/toiawase/saa_toiawase.html

- ◆回答は、個人情報保護監査研究会メンバーが行います。

- ◆回答のもたらす結果について当協会及び回答者は責任を負わないものとします。

- ◆質問者の個人情報は回答に必要な範囲のみで使用します。質問及び回答については、内容を一般化してQA集に掲載することがあります。

QA集：<https://www.saa.jp/04Kaiin/PMSHandBookQA.html>

10. プロジェクト監査研究会 [PJA研]

(主査 : 原田 憲幸 (理事))
(副主査 : 細川 健一 (理事))
(副主査 : 園田 博 (理事))

(1/2)

活動概要

「監査など役に立たない」とよく言われます。それは、プロジェクト終盤の監査指摘では手遅れで、挽回できず、しかも指摘事項は、先刻承知の事が多いからです。

当研究会は「役に立たない監査」でなく、「**プロジェクトを成功させる監査**」をテーマに11年間活動し、「プロジェクト監査本」を2冊出版しています。

- ・「**発注者のプロジェクトマネジメントと監査**」 (青本) 2018年出版
- ・「**失敗しないシステム開発のためのプロジェクト監査**」 (緑本) 2020年出版
(緑本付録 : プロジェクト監査項目表 (Excel版) ダウンロード提供)

監査本出版後は、事例研究などを通して「プロジェクトを成功させる要点」や「失敗の根本原因」などについて議論しています。

なお、緑本付録は“**プロジェクトを成功させる監査項目表**”として3年かけて抜本的に見直し、アジャイル編も追加して、2025年1月、全面改訂版*1を読者に配布しました。

*1 大項目 : 39、中項目 : 241、詳細項目 : 1216、解説/事例 : 280件



研究会の体制

- **PJA研 (プロジェクト監査研究会)** 原則隔月(金)18:30~ZOOMリモート会議、無料
メンバーのひとりが講演し、討論します。テーマは、成功事例、失敗事例、悩んでいる事、セキュリティやサイバーテロなどの技術動向、システム開発・運用・教育など、講演者が自由に定めます
- **DX分科会**(Digital Transformation) 原則隔月(水)19:00~ZOOMリモート会議、園田博リーダ 他5名
日本とグローバルのDXの進捗・成果を踏まえ、サンプル企業数社を選定して、DXの方向性や活動の進捗、効果の上がるDX推進方法、成功するDXプロジェクト構築などを考察します
- **メンバー** : 14名 (本部10名、支部4名) 無料 **いつでもメンバー募集中** (補助教材: 青本, 緑本)

10. プロジェクト監査研究会 [PJA研]

(主査 : 原田 憲幸 (理事))
 (副主査 : 細川 健一 (理事))
 (副主査 : 園田 博 (理事))

(2/2)

2025年活動状況

(1) PJA研	第45回	2月28日(金)	CCPM概論
	第46回	4月18日(金)	中堅製造業で基幹システムの刷新に7年かかった話
	第47回	6月20日(金)	基幹システム刷新における品質確保策
	第48回	7月25日(金)	テスト設計の原点回帰
	第49回	9月19日(金)	洋上管制 平成30年の歩み
	第50回	10月24日(金)	アサヒHDへのサイバー攻撃とQilin
	第51回	12月5日(金)	10年振りの生産系基幹システム刷新
(2) DX分科会	第38回	2月19日(水)	DX2025 Recent DX
	第39回	3月19日(水)	DXの一般的事例
	第40回	5月21日(水)	DXの実例
	第41回	7月16日(水)	DXの周辺技術・技法
	第42回	9月16日(火)	DXの実例進捗
	第43回	11月19日(水)	2026年のDX分科会

■プロジェクト監査本 2割引き購入チラシ

<https://www.saa.or.jp/shibu/Projectkansa/130804PJACHirashi.pdf> (SAAJホームページ 出版物案内)

PJA研へのお問合せ : saaiprojaud1092@saa.jp



11. BCP研究会 （主査：荒町弘）

(1/2)

BCP研究会の目的

組織におけるBCPに役立つ情報発信を行う
IT-BCPに関する監査基準・ポイントを整理する

活動の進め方

- ✓ 定例活動…毎月第2水曜日を基本とした月例会議の開催（オンライン）
- ✓ IT-BCPセミナーの企画・実施…年1回以上
- ✓ セミナー教材の整備（2025年は失敗原因マンダラ図を用いたワークショップ教材）

これまでの研究テーマ

- ✓ 中小企業のIT-BCP／IT-BCP監査の着眼点検討（中小企業庁／総務省資料等を参照）
- ✓ ICT部門におけるBCPへの取り組みと課題（協会報 No.203（2018年2月号））
- ✓ レジリエンス認証とシステム監査（情報システム監査実践マニュアル第3版に掲載）
- ✓ テレワーク環境におけるIT-BCP（協会報 No.245（2021年8月号））
- ✓ IT-BCP版「失敗原因マンダラ図」の作成

2025年活動実績

2月～5月：第1回～第4回定例会議（ワークショップセミナー企画・教材検討）
6月～8月：第6回～第9回定例会議（ワークショップセミナー教材作成）
11月：IT-BCP版失敗原因マンダラ図活用ワークショップセミナー 開催（予定）

11. BCP研究会 (主査：荒町弘)

(2/2)

活動の経歴について (イベント開催及び執筆等)

- 2010年 BCP研究会活動開始 (同年A社との共同取組み開始) ※SAAJ近畿支部
- 2014年 IT-BCP体験セミナー開催／西日本支部合同研究会にて活動報告
- 2015年 IT-BCP体験セミナー開催
- 2016年 IT-BCP体験セミナー開催(大阪市ICT戦略室向け)
- 2018年 協会報2月号記事掲載【ICT部門におけるBCPへの取り組みと課題】
- 2019年 レジリエンス認証制度とシステム監査について研究
- 2020年 情報システム監査実践マニュアル第3版 (グループで執筆)
(第3部 第10章 レジリエンス認証制度とシステム監査)
- 2021年 協会報8月号記事掲載【ワーク環境におけるBCPの考え方】
- 2022年 ワーク環境とIT-BCPの研究～BCAO ITサイバーワークフォースとの連携開始
- 2023年 IT-BCP体験セミナー開催 (2月25日、10月28日)
【2024年より活動を本部に移す】
- 2024年7月 第289回月例研究会 BCP研究会設立記念講演 (講師：大塚純一氏)
- 2024年9月 第1回IT-BCPセミナー (事例考察) 開催 (9月13日)
- 2025年11月 第2回IT-BCPセミナー (ワークショップセミナー) (11月15日開催)**



研究会メンバー (直近1年間の活動メンバー)

主査：荒町弘

メンバー：14名 計15名 (関東地区8名、関西地区7名)

お問い合わせ https://www.saa-j.or.jp/toiawase/saa-j_toiawase.html

12. 推薦委員会（委員長：松尾正行）

（1/2）

活動概要

1) 目的

社会的なシステム監査に対する認知度を高め、システム監査に対する社会のニーズを掘り起こし、適切に応え、協会の使命であるシステム監査の普及・啓発を促進し、もって正会員団体および正会員個人がシステム監査および関連する業務に係わる機会を拡大する。

（1）1号推薦

システム監査および関連する業務を遂行できる人材に関し、外部から協会に対して推薦依頼があった場合、協会として、依頼の趣旨に相応しい会員を候補者として推薦する

（2）2号推薦

外部からシステム監査および関連する業務を受託しようとする正会員団体および正会員個人から協会に対して推薦依頼があった場合、協会として、依頼会員を受託業務に相応しい会員として推薦する

2) 推薦制度運営委員会（推薦委員会）

- (1)推薦台帳への登録申請の受付および審査
- (2)推薦台帳の維持管理
- (3)推薦依頼の受付と推薦者の決定
- (4)推薦制度の告知

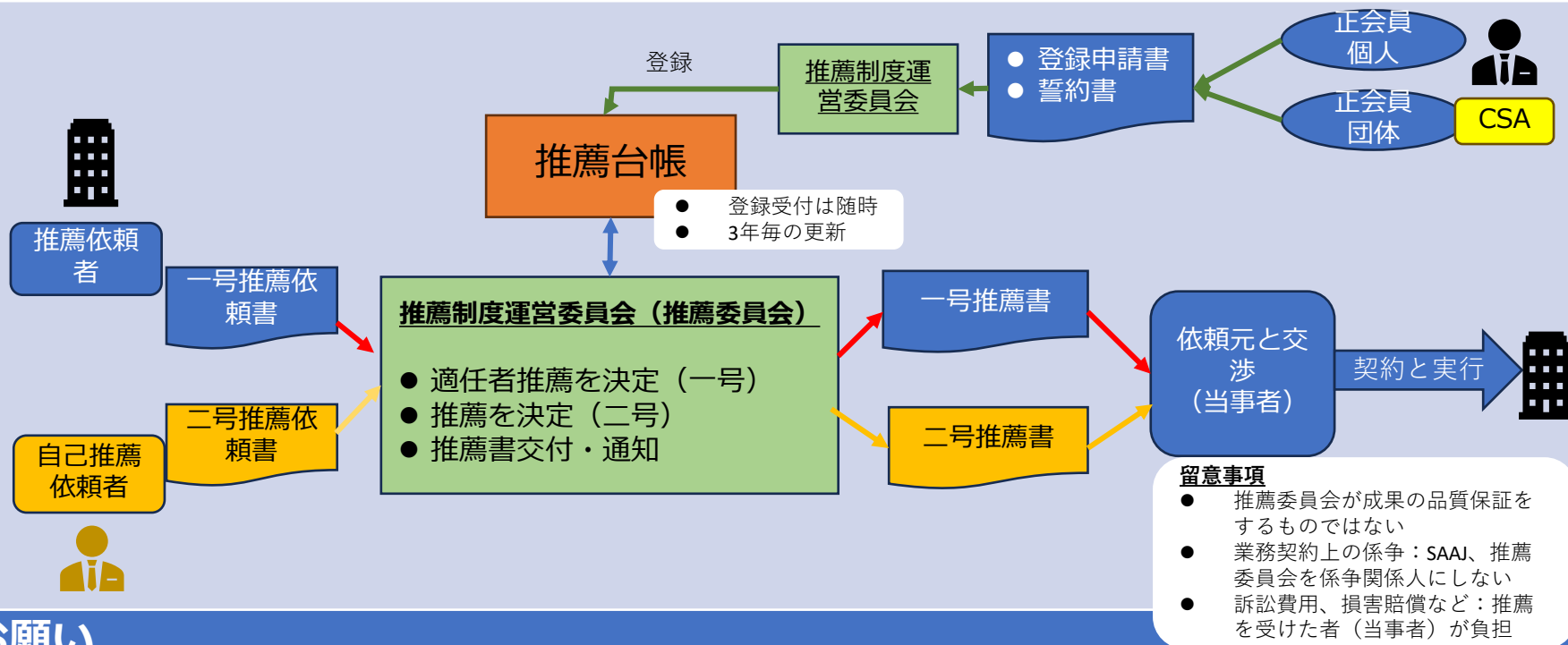
推薦台帳

- 公認システム監査人（CSA）資格を有する個人又は個人が所属する団体を登録しておき、推薦依頼があった場合、台帳登録者から適切な推薦者を決定する。（正会員個人、正会員団体）
- CSA以外にも色々な資格保持者が登録されている（情報処理技術者A,B、公認情報セキュリティ監査人、技術士、中小企業診断士他）

12. 推薦委員会（委員長：松尾正行）

(2/2)

推薦の流れ



お願い

- 推薦台帳にはシステム監査の経験豊富な個人、団体が全国ベースで登録されています。所属企業や関係先から相談を受けた場合、推薦制度の存在をアピールし、活用の可能性を検討してください。
- 推薦台帳登録は2025年8月に締め切りでしたが、追加登録の希望あればご相談ください。
- 推薦制度に関する疑問など気軽にご相談ください。 suisen@saaj.jp

お問い合わせ https://www.saaj.or.jp/toiawase/saaj_toiawase.html

13. 認定委員会（委員長：舘岡均）

(1/2)

「公認システム監査人」 認定制度

システム監査技術者試験合格者及びそれと同等の能力を有する者を当協会が審査し、公認システム監査人として登録を認める制度です。（特別認定制度）

（認定制度は1999年通商産業省（現経済産業省）の産業構造審議会・情報化人材対策小委員会の提言を受け誕生）

「公認システム監査人(Certified Systems Auditor : CSA)」 ---実務経験 **2年**以上

「システム監査人補(Associate Systems Auditor : ASA)」 ---実務経験 **2年**未満

＜実務経験について＞ 実務は「Aシステム監査」だけでなく、

「B：業務監査・会計監査」「C：ISMS・ISO9000審査など」「D：部門内監査、自主点検、品質管理など」

「E：ITコンサル・ITセキュリティ管理・IT管理など」「F：実務経験習得セミナーなど」「G：他団体教育講座」

「H. 学識・経験」がある。

＜「公認システム監査人」資格を保有することで期待できること＞

- ・ 社会での信用力向上と活躍の場の拡大、
- ・ 専門知識や技能の更なる向上
- ・ 人的ネットワークやビジネスチャンス
- ・ キャリアアップ（社内、転職） 等々

CSAは経験を積んだ実力ある監査人として、様々な方面から信頼されている。

＜「公認システム監査人」の活躍の場＞

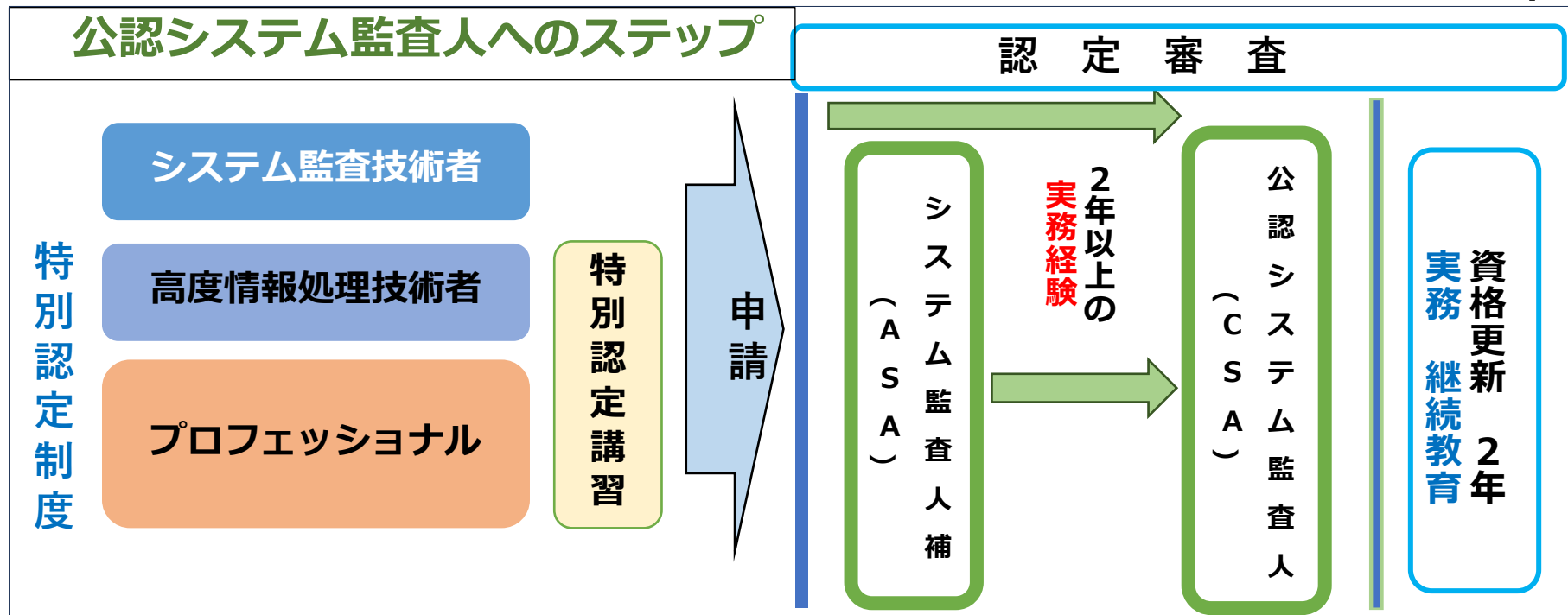
経営陣、内部監査部署（ITガバナンス、IT統制など）、情報システム部署、営業部署（システム提案／超上流工程）／開発部署、運用部署、プロジェクトシステム監査、プロジェクト評価、弁護士、公認会計士、技術士、中小企業診断士、情報セキュリティ監査、サイバーセキュリティ、BCP、ISMAP、CSIRT等の関連、審査機関、監査法人、教育機関、政府・地方自治体職員／CIO補佐官、各種評価委員、DX分野等。

◆クラウド、IoT、DX、AI等々のように、専門的な技術の高度化、利用範囲の広がりでシステムが複雑化。

⇒ 俯瞰的な視点でのシステム監査活躍の場は広がっている

13. 認定委員会（委員長：舘岡均）

(2/2)



※高度情報処理技術者

情報処理技術者 A：ITストラテジスト、システムアーキテクト、プロジェクトマネージャ、ITサービスマネージャ

情報処理技術者 B：ネットワークスペシャリスト、データベーススペシャリスト、エンベデッドシステムスペシャリスト、情報セキュリティスペシャリスト、情報処理安全確保支援士

※プロフェッショナル

公認会計士、米国公認会計士、中小企業診断士、技術士、ITコーディネータ、CISA（公認情報システム監査人）、内部監査人（CIA,CCSA・・・）、PMP

QMS主任/エキスパート審査員、公認情報セキュリティ監査人、ISMS主任/エキスパート審査員、プライバシーマーク主任審査員、